



## 放送大学

教養学部「心理と教育」コース

**星 薫** (ほし かおる)

所在地：千葉市美浜区若葉 2-11 (本部)

<http://www.ouj.ac.jp/>

### Profile—星 薫

放送大学教養学部准教授。専門は認知加齢研究、認知心理学、発達心理学。著書は『物忘れの心理学』（近代文芸社）、『生涯発達心理学研究』『心理学概論』（共著）（いずれも放送大学教育振興会）など。



放送大学は創立30年の若い大学です。このごろやっと、少し認知されてきたところですが、これまでは何処に行っても「放送大学？ ああ、NHK学園ね」とか「放送関係者の養成学校でしょ？ アナウンサーの養成もしているの？」などと言われ続けてきました。この小文をお読みの方の中にも、あるいはそのように思っておられた方があるかもしれません。一方また、「市民大学」とか「老人大学」の仲間だと思われることも少なくありません。でも本当は、NHKの大学でも、老人大学の親戚でもなく、文科省認可の正規の四年制大学なのです。ただ、ちょっと変わった特徴がいくつかあり、通常の大学とは様子かなり違ってすることは間違いありません。

違って点の第一は、学生の大半が社会人だということでしょう。最近では、一般の大学にも学生なのか先生なのか判断が難しい年齢の学生もいますけれど、放送大学には、10歳代から80～90歳代ぐらいまでの非常に幅広い年齢層の学生が集っているので、本当にどれが教員でどれが学生なのか、一見ただけでは全く分からないところか、あまりに威風堂々としていて周囲の人たちが思わず頭を下げてしまうような学生も時々見かけます。平均年齢でいうと大体40歳代の半ばぐらいになるようです。

また、入学のために入試を突破

する必要がないのも、社会人学生を対象にしていればこそでしょう。既に社会に出ていて、仕事や家庭役割を担っている人たちにとって、学びたいという希望があっても、入試を潜り抜けなければその希望がかなえられないのでは、ハードルが高すぎるというものでしょう。ただし、入試がないということは、卒業も容易であるということを意味しません。入学するだけなら選科履習生・科目履習生は満15歳以上、全科履習生は高等学校卒業・大検合格者なら誰でも可能なのですが、卒業はなかなか難しいようで、入学者の20～30%程度だと推測されます。「推測」などというのは、一般大学のように、ある年度に入学した学生が、4年後にそろって卒業するというわけではないからです。4年間で卒業していく人もいないわけではありませんが、5～6年あるいはそれ以上の年限を要して卒業までたどり着く人もいれば、10年後に大学に戻ってきて、それから卒業するという人もいたりするからなのです。

通信制の大学なので、学生がキャンパスに常時集うというわけではないとはいえ、ほとんどの講義を、テレビあるいはラジオというメディアを通じて行うという点も、放送大学のユニークな点の一つでしょう。最近では、こうした放送講義のほとんどをインターネットで受講することも可能にな

りましたので、受講生たちは自分の都合の良い時間に、講義を「視聴」することができます。さらに、それらの講義は録画しておくことも、DVDで記録もされますので、同じ講義を何回も受講することが可能なのも、教室での講義とはかなり違って点の一つです。1科目受講し、2単位を修得するために、学生は「印刷教材」と呼ばれる15章からなる教科書（その科目の担当講師が作成したもの）を読み、さらに「放送授業」と呼ばれる講義（テレビないしはラジオを通じて、担当講師が講義する）を15回分受講し、中間の8回目のときに「通信指導」と呼ばれている中間レポートを提出し、最後に夏、冬2回行われる「単位認定試験」と呼ばれる期末試験を受けて、これに合格しなければなりません。職業を持ち、家庭役割を持つ人々にとって、これは決して楽な挑戦ではないと思われませんが、全国で9万人弱の人々が、現在放送大学で学習中です。

教員は講義をするために、教室に行く代わりにテレビないしラジオのスタジオに行きます。さらに講義では時間（45分）厳守が鉄則であり、また、ディレクター、カメラマンなどの放送技術者等、多くの人々の助力なしには実施できないので、講義の形式や内容が必然的に非常に「公的」なものになるのも、放送大学の特徴でしょう。

学生が全国に散らばっているこ

とも、他の大学と様子が違ってきます。一般大学なら、学生の出身地こそ全国に広がっているとしてみても、入学のときには大学に集合しますが、放送大学の場合、全員が一箇所に集まるということはほぼ皆無です。講義のほとんどが放送で行われますので、学生は自分の現住地にいながら、放送大学に入学できるわけですし、学生は各県に一つずつある学習センターと呼ばれる施設に所属することになり、入学式、卒業式、単位認定試験の際などには、その学習センターに行きます。また、放送講義とは別に、スクーリングも開設されており、これは学習センターで行われますので、そのためにも学生は学習センターに足を運びます。このスクーリングを放送大学では「面接授業」と呼んでいるのですが、大学卒業のためには、この面接授業でも一定数の単位を取得しなければなりません。仕事などスケジュールの合間を縫って学習センターに足を運び、面接授業に参加することはそれなりに大変だろうと思うのですが、放送大学の学生たちは、概してこの面接授業がとても好きなようです。というのは、普段は一人で学習をしていますので、自分のペースが守れるということはあるものの、やはり孤独であることは免れません。それが面接授業となると、自分と同じように学習している仲間たちに出

会える数少ない機会に恵まれるわけですので、楽しみにするものもなずけます。また、普段はテレビかラジオを通じてしか知らなかった先生に直接会うことができるのも、この面接授業という機会です。

この数少ない機会にできるだけ多くのことを学び取りたいと思う学生たちは、先生を質問攻めにします。一般大学で、学生から質問など受ける機会が少なく、寂しい思いをなさっておられるらしい他大学の先生たちの中には、非常勤で放送大学にいらっしゃると、この質問攻めにうれしい悲鳴を上げの方が少なくありません。

認定心理士資格の取得者に関していうと、放送大学出身者は現在、全取得者の約1割強（2013年末現在で4,600名以上）を占めています。これにはいくつか理由が考えられます。先ほど申しましたように、放送大学の学生は大半が職業を持つ社会人ですので、認定心理士資格が仕事の上で役立つという方も、少なくないようです。特に看護師、保育士、助産師などの対人援助を仕事としておられる方の場合、認定心理士資格の取得が職業上有利に働いたというケースがいくつも報告されています。一般企業にお勤めで、人事課長に昇進したために、上司からの命令で認定心理士資格取得を命じられたという学生にも、以前出会ったことがあります。

放送大学の仕組みが、認定心理士資格取得を後押ししているという面もあるかもしれません。つまり、放送大学の場合、何を専攻している学生であっても、興味のある科目はどれでも受講することができるので、学生なら誰でも、関心と意欲があれば、認定心理士資格取得に必要な心理学科目の単位を得ることが可能なのです。だから、放送大学で自然科学を中心に学習している人でも、歴史学を学んでいる人でも、認定心理士資格に必要な学習ができるのです。

また、放送大学ならではのと思える資格取得の理由として、「心理学を学んだ証として」という人も少なくありません。先ほど述べたように、「どの科目でも受講可能である」という放送大学の場合、自分の興味関心だけで科目を選択すると、どうしても偏りが生じます。そうした偏りを是正する手段として、認定心理士の資格要件が一種の学習ガイドラインとしての役割を果たしてくれ、その結果、認定心理士資格取得に至ったという人が少なからずいます。

また、放送大学の学生は社会人が多いので、資格取得に必要な4万円という金額がさほど大きな負担には感じられないということも、放送大学の卒業生に認定心理士資格取得者が多いという理由の一端なのかもしれません。



写真1 福岡学習センターで行われた「文化財保護」の面接授業風景

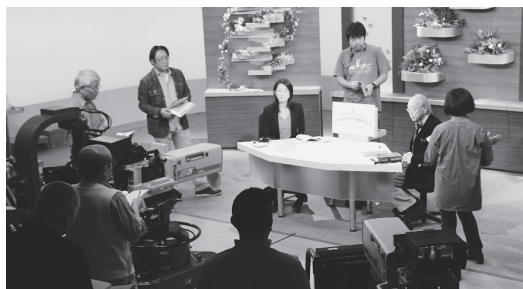


写真2 放送授業の収録風景